

「千葉県立図書館の今後の在り方」行動計画

平成29年度実施状況

I	市町村立図書館充実のための支援強化	(目次)
1	県内図書館ネットワークの中核的機能の強化	p 1
2	新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施	p 3
II	未来を担う子どもの読書活動の推進	
1	子どもの読書活動推進センター館機能の強化	p 4
2	学校図書館との連携・支援	p 6
III	県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及	
1	県民の課題解決に対する支援	p 9
2	高齢者・障害者サービス等	p 12
IV	千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承	
1	千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存	p 14
2	関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信	p 17
V	社会の変化に対応した図書館サービスの推進	
1	ITを活用したハイブリッド図書館の整備	p 18
2	県民に開かれた図書館経営	p 19
VI	今後の図書館経営・施設整備の方向性	p 20

平成30年 8 月

千葉県立図書館

I 市町村立図書館充実のための支援強化

住民の生涯学習と地域の発展を支える情報拠点としての機能を十二分に発揮し、充実した図書館サービスが行えるよう市町村立図書館を支援する。（※白抜き○番号【●等】は最重点事業。目標数値は5年間の平均値または累積数）

1 県内図書館ネットワークの中核的機能の強化

【重点事業①】 資料搬送ネットワークの維持・改善

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの施設に、市町村で収集し難い資料収集を含め、迅速な資料提供ができるようにする。

<年度別>25～26年度 図書館実態調査の実施（他都道府県、県内市町村）

27～28年度 調査結果の分析・対応検討

29年度 資料搬送ネットワークの改善、高校等への資料搬送の周知拡大

【平成29年度 進捗・成果】

平成26年度県内公共図書館等に実施した調査及び平成22年度全国公共図書館協議会調査（都道府県立図書館状況）により、改善策の検討を進めた。現時点では、迅速・確実な相互貸借システムの維持、県民への更なる周知・広報を当面の改善策とし、迅速なレファレンス・的確な配送等により、相互貸借システムの有用性の確保とともに、様々な機会を捉えてのPRに努めた。

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
A 県立図書館蔵書貸出冊数	平均 冊	冊	冊	冊	冊	冊
	101,000 100,063	89,984	93,615	107,022	104,093	105,600
B 市町村立図書館等読書施設蔵書貸出冊数	平均 冊	冊	冊	冊	冊	冊
	96,000 99,417	94,493	98,542	98,506	100,750	104,792

【重点事業②】 情報検索ネットワークシステム（横断検索システム）の維持・改善

・次期システムの更新に向けて更なる対象館の拡大とシステムの改良を行う。

<年度別>25～29年度 次期システムの検討

26年度 県内図書館アンケート調査実施

27年度 調査結果分析

29年度 システムの改善

横断検索参加館の拡大【H28】、図書館情報システムの更新

【平成29年度 進捗・成果】

3館）更新対象機器の構成や操作性向上に必要な機能改善の内容等について検討を行い、10月にシステムの更新を行った。

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
C 利用者アンケート満足度調査 総合満足度	平均 以上 75.0% 78.3%	76.3%	79.5%	78.7%	75.5%	81.3%
うち資料検索機、インターネット等パソコン利用の満足度【他の項目はV-2参照】	—	73%	77%	78%	69%	82%

【重点事業③】 県内大学図書館、類縁機関とのネットワークづくりを推進

○大学図書館については、千葉県立図書館横断検索への参加や相互貸借など、一層の連携や充実を図る。

○類縁機関については、県の機関を中心に連携を推進し、千葉県関係資料のデータベースの一層の充実を図る。

<年度別>25～28 年度 大学図書館、類縁機関と連携について協議

29年度 新ネットワークの始動

博図公連携意見交換会の開催【H25～】、連携事業の実施【H25～】

【平成29年度 進捗・成果】

3 館) 連携の在り方について検討（連携事業の実施）

県立中央博物館、県民プラザとの意見交換会を1回開催し、連携事業状況を確認しながら、今後の連携について意見交換を行った。

<大学図書館、類縁機関との連携事業> [※人数は参加者数を示す（以降同様）]

3 館) 県内の大学及び類縁機関と連携し、資料の相互貸借や研修事業を行った。

大学への貸出（515 冊）及び借受（155 冊）、類縁機関への貸出（152 冊）

中央) さわやかちば県民プラザ 読み聞かせ講座（教職員対象）（共催）7 月 28 日、26 人

さわやかちば県民プラザ 読み聞かせ講座（一般対象）（共催）2 月 2 日、32 人

千葉県こども病院 訪問おはなし会 9 月 6 日（延べ 23 人）、11 月 14 日（延べ 8 人）

中央博物館との連携展示「きのこワンダーランド」

7 月 22 日～9 月 10 日、2 月 10 日～3 月 31 日

千葉敬愛短期大学平成 30 年度開講「認定絵本土」講座への協力

千葉県立社会教育施設等（県民プラザ・図書館・中央博物館・文書館）の事業連携に関する意見交換会 11 月 2 日、15 名

西部) 「サイエンス・カフェ 日本人と海藻」（講師：中央博物館）7 月 29 日、28 人

「開館 30 周年記念講座 東葛を旅した人々～桃林・桜雲を愛で行く日々～」

（講師：中央博物館）10 月 7 日、23 人

東部) 「歴史講座 北総四都市江戸紀行-銚子・佐原・成田・佐倉-」

（講師：中央博物館）11 月 4 日、64 人

「千葉経済大学短期大学部との連携研修会」（講師：千葉経済大学短期大学部）2 月 15 日、22 人

2 新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施

【重点事業①】 図書館研修センターとしての機能強化

○運営支援の一環として、全ての県内図書館等読書施設の職員が、図書館サービス向上のための研修を受けられるよう、千葉県公共図書館協会と連携した研修プログラムの開発を行う。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査実施

27～28年度 研修プログラムの検討（継続）

29年度 新プログラムによる研修開始

3館）新任研修3館分散開催【H26～】

3館）新任研修に障害者サービスを独立化【H27～】

西部）障害者サービス研修会再編（基礎対象・2週連続開講）【H29～】

【平成29年度 進捗・成果】

3館）26年度より、参加者の移動負担を軽減するため、新任職員研修を県立3館で分散開催した。中央図書館については講堂が使用できないため中央博物館を会場として開催した。また、地域行政資料研修会第2回では、文書館の視察や中央博物館の展示解説・見学を行い、連携による相乗効果を高めた。さらに、話題・課題性の高い研修内容を選び実施した。今後も課題把握や情報収集を積極的に行い、研修プログラムの検討を進める。

数 値 項 目	目標数値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実 績					
D 研修会の参加者数及び満足度 (参加者数)	平均 人	人	人	人	人	人
	660 653	662	681	655	658	608
(満足度)	平均 以上	%	%	%	%	%
	88.0% 90.0%	88.0	91.5	91.1	90.6	88.7

<研修会（実施状況）> 20回開催（図書館等読書施設職員 延べ608人）

中央）「新任職員研修会」5月10日、26人、満足度87.5%

「中堅職員研修会」10月11日、21人、満足度90.5%

「児童サービス研修会（全5回）」第1回6月15日、第2回6月22日、第3回7月6日

第4回・第5回9月22日 延べ239人、満足度85.9%

「レファレンス研修会〔基礎研修〕」6月16日、42人、満足度95.0%

「レファレンス研修会〔専門研修〕」10月6日、17人、満足度100%

「地域行政資料研修会」第1回11月17日、15人、満足度80.0%

「地域行政資料研修会」第2回12月6日、33人、満足度75.8%

「課題解決支援サービス研修会〔展示と広報〕」2月23日、24人、満足度87.5%

西部）「新任職員研修会」5月17日、30人、満足度87.5%

- 「障害者サービス研修会 第1回」7月7日、20人、満足度87.5%
- 「障害者サービス研修会 第2回」7月12日、29人、満足度95.2%
- 「課題解決支援サービス研修会 第1回 [公共図書館における信頼できる医療・健康情報提供を考える]」
6月28日、33人、満足度96.7%
- 「課題解決支援サービス研修会 第2回 [図書館資料の保存]」11月30日、20人、満足度95%
- 東部)「新任職員研修会」5月18日、11人、満足度90.9%
- 「課題解決支援サービス研修会 [認知症と図書館]」9月15日、26人、満足度88.0%
- 「千葉経済大学短期大学部との連携研修会」2月15日、22人、満足度100%

Ⅱ 未来を担う子どもの読書活動の推進

県内公立図書館のセンター館として、家庭、市町村立図書館、学校等における子どもの読書活動やこれに携わる人や機関等との連携協力の推進を図る。

1 子どもの読書活動推進センター館機能の強化

【重点事業①】 児童サービス職員研修会の開催、運営相談の実施

- 市町村立図書館等読書施設でも対応できるよう児童サービス担当職を育成する。
- 研修プログラム等の見直しを図る。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査の実施

27年度 事業内容の検討

28年度 新研修プログラムの始動 中央)研修会分割(2か年)受講【H26～】

【平成29年度 進捗・成果】

中央)市町村立図書館等職員向け研修会を5回開催延べ239人参加、満足度は85.9%であった。

研修会は受講しやすいよう、26年度より年度をまたいでも分割受講できるようにしている。

数 値 項 目	目標数値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実 績					
D' 研修会の参加者数及び満足度 I-2-①の数値項目のうち児童サービス研修会 [参考項目]	—	人 243	人 256	人 240	人 219	人 239
	—	% 94.1	% 90.4	% 89.2	% 91.2	% 85.9
E 児童サービス研修会開催回数	平均 回 5 5	回 5	回 5	回 5	回 5	回 5

中央)「児童サービス研修会(全5回)」延べ239人、満足度85.9%

第1回 (児童奉仕概論)6月15日、45人、満足度83.3%

第2回 (絵本・物語の選書)6月22日、45人、満足度81.1%

- 第3回 (おはなし会の運営、ノンフィクションの選書) 7月6日、43人、満足度82.9%
 第4回 (レファレンスサービス) 9月22日(午前) 41人、満足度97.4%
 第5回 (講演会) 9月22日(午後) 65人、満足度85.2%

【重点事業②】 家庭における読書活動の推進

- 講座プログラム等事業の見直しを図り、地域のボランティアとして活動できるよう支援する。
 ○乳幼児・児童などの保護者等への課題解決支援サービスを検討、実施する。

<年度別>25～29年度 事業内容の再検討と実施

中央) 子育て支援情報コーナーの充実(継続)

27年度 新講座プログラムの実施

中央) 読み聞かせボランティア入門講座実施【H27～】

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 県民が子ども読書活動における地域ボランティアとして活動できるよう「読み聞かせボランティア入門講座」を11月27日に一宮町中央公民館で、1月25日に勝浦芸術文化交流センターキュステで開催した。

また、高等学校で高校生向けに読み聞かせ講座を10回実施し、239人が受講した。

数 値 項 目	目標数値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実 績					
F 図書館ボランティアの育成者数	平均 人	人	人	人	人	人
	70 79	74	87	97	59	76

【重点事業③】 ヤング・アダルトサービスの開発

- 10代の若者に対して進路や就職など必要な資料情報活用のための支援を行う。
 ○10代に出会う多様なテーマや生き方を、読書を通じて支援していく。

<年度別>26～27年度 サービス計画立案・策定

28年度 関係資料整備

中央) 高等学校支援用セット資料の整備・広報(継続)

29年度 サービスの開始

中央) サービスのホームページでの展開

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 高校の授業に役立つ資料リストを44件、図書館未設置市町村の読書施設を通じて中学校の授業に役立つ資料リストを14件作成し、県立3館で情報共有を図った。

ヤング・アダルトサービスは、12月に中高生向けのページ「としょ部っ! 中高生の本だな」をホームページに開設し、高校生向け調べ方案内や県内高校の図書委員会活動の事例や県内市町村の中高生向けページへのリンクなどを提供開始した。

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
G 児童書の貸出冊数 <児童資料室 (中央)>	平均 冊	冊	冊	冊	冊	冊
	参考数値	38,382	40,176	39,926	34,811	39,859
H 子ども読書支援関係のテーマ別リスト 作成件数	累計 件	件	件	件	件	件
	120	25	35	25	41	58
	184					

※電算上ヤングアダルト世代（13歳から18歳）への貸出冊数の統計は取れない。

※児童書の貸出冊数＝個人貸出冊数（中央）＋協力貸出冊数（3館）

<テーマ別リストの主な内容> 「江戸時代の文化」、「物の歴史」、「生物の進化」、「介護・レクリエーション」など

2 学校図書館との連携・支援

【重点事業①】 学校向けの貸出用資料の整備

○高等学校からの要望も取り入れながら、新規のテーマや既存のセットに新刊図書を組み入れる等、授業で利用できる資料整備を推進していく。

<年度別>25～29年度 学校用セットの整備

25～26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 副校長・教頭会議や司書の会議に加え、実際授業等で指導を行う教員の会議（総合教育センター高等学校・特別支援学校初任・5年の教職員研修会や中堅教諭等資質向上研修、高等学校長協議会理事会・連絡協議会）でのPRを行った。

「高等学校・特別支援学校用セット」利用実績 延べ88校260セット

特別支援学校への訪問おはなし会の実施（3校 桜が丘特別支援学校、千葉盲学校、市原特別支援学校）

西部) 特別支援学校への訪問読書支援の実施（西部管内の県立校へ事前調査、希望校中9校へ訪問）

ア 読み聞かせ：つくし、我孫子、印旛、船橋、矢切、市川、船橋夏見、松戸、柏 特別支援学校
イ 運営相談：訪問読書支援の際に短時間の運営相談を実施。

東部) 第3地区図書主任及び学校図書館司書合同総会及び研究会、東総地区高等学校図書委員連絡協議会研究会での広報。県内高等学校・特別支援学校・大学への運営相談（計57回）、運営相談時に広報パンフレットの配布を行った。

学校図書館運営研修会（第1回読み聞かせの基礎 2人、第2回学校図書館オリエンテーション9人）実施、計11人参加

特別支援学校への訪問読書支援に関する調査・研究を行い、読み聞かせを実施した。（1校 東金特別支援学校）

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
I 県立学校等への資料貸出冊数	平均 冊	冊	冊	冊	冊	冊
	20,000	15,584	17,572	23,061	25,047	30,739
	22,401					

【重点事業②】 物流ネットワークの整備

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの学校に、迅速な資料提供ができるよう効率的なネットワークを整備する。

<年度別>25～26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施

27～28年度 物流ネットワークの再構築

西部) 管内協力車未巡回高等学校等への宅配サービス開始【H27～】

29年度 新ネットワークの開始 資料搬送の周知拡大

【平成29年度 進捗・成果】

3館) 高等学校等の求めに応じて、中央は宅配、東部は協力車巡回による資料搬送を行った。西部は協力車巡回とともに、27年度から管内協力車未巡回校への宅配サービスを開始した。

中央) 利用校を増やすため、教員の研修や司書の会議でのPR等（前出Ⅱ-2参照）を行った。

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
I 県立学校等への資料貸出冊数 【再掲 Ⅱ-2-①】	平均 冊	冊	冊	冊	冊	冊
	20,000	15,584	17,572	23,061	25,047	30,739
	22,401					

【重点事業③】 小・中学校図書館との連携・支援

○事業内容を再検討し、研修会の実施や講師の派遣など事業の充実を図る。特に図書館未設置市町村の学校図書館への支援方法等を検討し、実施していく。

○児童・生徒が抱える課題解決支援サービスを検討し、資料・情報を提供する。

<年度別>25～29年度 事業内容の再検討と実施

西部、東部) 近隣小中学生の職場体験受入（継続）

中央) 近隣中学生の校外学習支援セミナーの実施

(H29 近隣中学校へのアウトリーチサービス実施)

25～27年度 図書館未設置市町村読書施設の実態調査と支援方法の再検討

28年度 図書館未設置市町村小中学校への間接的支援開始

中央) 市町村教育委員会を通じての支援（継続）

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 近隣中学校への出前授業の実施。(新規) (2校 延べ236人)

小中学校図書館には市町村立図書館等を通しての資料貸出しを行った。また、小学校の調べ学習でも使える郷土の偉人34人のブックリストを作成し公開した。子ども読書推進センターでは小学校の教科単元別資料リストを作成した。

西部、東部) 通年 近隣小中学生の職場体験受入(西部: 中-1校5人、東部: 小-1校6人、中-6校14人)
小・中学校図書館には、調査相談や市町村立図書館等を通しての資料貸出しを行った。

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
J 教職員等に対する研修会開催回数 及び講師派遣件数 (開催)	平均 回	回	回	回	回	回
	参考数値	2	1	2	3	3
	平均 件	件	件	件	件	件
(派遣)	参考数値	8	9	13	15	17

＜研修会開催（実施状況）＞ 3回

中央) さわやかちば県民プラザ読み聞かせ講座（教員向け）

東部) 学校図書館運営研修会：第1回読み聞かせの基礎、第2回学校図書館オリエンテーションについて

＜講師派遣（実施状況）＞ 5件

中央) 県立千葉中学校（3人）、千葉市立葛城中学校（3人）

特別支援学校副校長・教頭会議（1人）、高等学校・特別支援学校中堅教諭等資質向上研修（1人）
特別支援学校5年経験者研修（1人）、千葉県子ども読書の集い（3人）、千葉県高等学校教育研究会図書館部会総会（1人）、高等学校初任者研修（1人）、高等学校5年経験者研修（1人）、千葉県高等学校教育研究会図書館部会司書の会総会（1人）、特別支援学校初任者研修（1人）、公立図書館と学校の連携を図るための研修会（2人）、千葉県高等学校長協会理事会・連絡協議会（1人）
富里市学校図書館担当者会議（1人）

東部) 第3地区学校図書館関係職員・図書委員研修会（1人）、匝瑳市小・中学校初任者研修会（1人）、千葉県教育研究会東総支会学校図書館部会研修会（2人）

Ⅲ 県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及

県民や地域、行政が抱えている法律、医療・福祉の問題、まちづくりなどの課題を解決するための調査研究支援を先導して行うとともに、市町村立図書館等への普及を図る。

1 県民の課題解決に対する支援

【重点事業①】 課題解決支援サービスの実施及び市町村立図書館への普及

○県立3館の研修内容を精査し、千葉県公共図書館協会とも連携して開催する等市町村立図書館への普及を推進する。

○地域の課題に対応した課題解決支援サービスのサービス計画の立案を支援するため、市町村立図書館等の相談に応じる。

<年度別>25～29年度 市町村立図書館主体の課題解決講座始業の相談対応

3館) 課題解決支援サービス研修会開催(継続)

25～26年度 事業内容の検証

3館) 研修会の開催を2館3回から3館4回に増やし、各館の特色を活かした研修を実施(継続)

27～29年度 研修会のプログラム再編

【平成29年度 進捗・成果】

3館) 3館の特色を生かした課題解決支援サービス研修会を4回実施、図書館等職員103人が参加、研修会開催時アンケート調査での満足度は88.3%であった。また、県民向けの講座を8回開催し延べ137人の参加を得た。

<課題解決サービス支援研修会(実施状況・内容)> 4回(103人、満足度88.3%)

中央)「博物館展示の実際／公共施設の効果的な広報」2月23日、24人、満足度87.5%

西部)「公共図書館における信頼できる医療・健康情報提供を考える」6月28日、33人、満足度96.7%

「図書館資料の保存、図書館資料の簡易な補修」11月30日、20人、満足度95.0%

東部)「認知症と図書館」9月15日、26人、満足度88.0%

<課題解決サービス関連講座(実施状況)> 7回(延べ137人)

中央)「暮らしに役立つ法律・判例情報講座」11月26日、25人、満足度66.7%

「暮らしに役立つ法律・判例情報講座(データベース講習会)」1月17日、16人、満足度87.5%

「菜の花ライブラリー活用講座」6月17日、6人 満足度100%

「データベース活用講座(ヨミダス歴史館活用講座)」8月19日、10人、満足度100%

西部)「健康・医療情報講座1」6月24日、28人、満足度77.0%

「健康・医療情報講座2」9月30日、27人、満足度75.0%

東部)「はつらっライフ講座(全2回)」

「介護を必要とする体にならないために」10月14日、13人、満足度100%

「老後の生活設計」1月13日、18人、満足度80%

<参考項目>

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
D' 研修会の参加者数及び満足度 (参加者数)	—	人 104	人 114	人 97	人 117	人 103
I-2-①の数値項目のうち 課題解決支援サービス研修会 (満足度)	—	% 87.5	% 88.4	% 90.7	% 82.5	% 88.3

【重点事業②】 レファレンス事例集紹介、調べ方案内、リンク集の作成

- 利用者ニーズを把握し、作成件数を増加しながら、既存のものについても常に最新のものに更新していく。
- 作成にあたっては、県行政機関の広報活動支援の一助となるよう各機関が発信する情報の収集及び提供に努める。

<年度別>25～29 年度 利用者ニーズの把握・検討、データの新規作成及び更新

3 館) 国立国会図書館レファレンス協同データベース提供 (継続)、パスファインダーの作成 (継続)、レファレンス事例集の更新【H29】

【平成29年度 進捗・成果】

3 館) 国立国会図書館レファレンス協同データベース提供 95 件

レファレンス事例は、データベース登録に適した事例を選定し、同様事例の調査にも利用しやすいように調査過程などの補足や加工をして事例登録した。

※国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する調べ物のための検索サービス。参加館の質問・回答サービスの事例、調べ方、コレクション情報など調査に役立つ情報を公開している。

3 館) パスファインダー (調べ方案内) の作成 17 件

問合わせの多い調査、社会的な関心が高まっているテーマ及び講座や展示資料と関連したテーマのパスファインダー (調べ方案内) を作成、配布するとともに図書館ホームページへ掲載した。

<内容>

中央) 新規 4 件 (職業・就職活動について調べる、沖縄について調べる、統計情報を探す (現代日本編)・(長期・地域・国際編))、改訂 5 件 (薬物依存について調べる、裁判員制度について調べる、宇宙・天文について調べる、日食について調べる、千葉県の「市町村」について (市町村史等一覧))

西部) 新規 2 件 (害虫・害獣について調べる、手話について調べる)、改訂 2 件 (「がん」を調べる、聴覚障害について調べる)

東部) 新規 2 件 (年金について調べる、観光事業について調べる)、改訂 2 件 (人物情報について調べる 日本人編、シンガポールについて調べる)

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
K 国立国会図書館のレファレンス協 同データベースへの事例提供件数	累計 件	件	件	件	件	件
	430 457	85	94	95	88	95
L パスファインダー（調べ案内） の作成件数	累計 件	件	件	件	件	件
	67 70	20	10	12	11	17

【重点事業③】 商用データベースの積極的導入

- 効果的且つ効率的な導入方法を検討し、専門的なレファレンスに迅速に対応できるようにする。
- 多くの来館者が操作方法を修得できるよう分かり易く、魅力的なガイダンスを定期開催する。

<年度別> 25 年度 ガイダンスの検討・実施

3 館) パスファインダー等の作成、利用講座の実施（継続）

25～28 年度 データベースの導入方法の検討

29 年度 導入方法の変更

3 館) データベースの拡充

【平成29年度 進捗・成果】

データベースに関する利用・活用講座を計 11 回（中央 2 回、西部 2 回、東部 7 回）開催した。
また、国・民間（有料）等のデータベースを活用した調査相談、来館利用提供を行った。

データベースの拡充を検討し、電子書籍「有斐閣 YDC1000」に代えて「ジャパン・ナレッジ Lib」を導入した。

中央) 「データベース活用講座（ヨミダス歴史館活用講座）」8 月 19 日、10 人

「くらしに役立つ法律・判例情報講座（データベース講習会）」1 月 17 日、16 人

西部) 「ワンポイント図書館活用講座」（講座後に開催）

「睡眠はこころとからだのバロメーター」（健康・医療情報講座第 1 回）6 月 24 日、28 人

「和食と健康」（健康・医療情報講座第 2 回）9 月 30 日、27 人

東部) 『図書館ナビ』データベース講座

「自分の生まれた日の新聞を読んでみよう」5 月 27 日、1 人

「雑草・害虫撃退法を調べよう」7 月 22 日、1 人、8 月 26 日、1 人

「気になる裁判の判決を調べよう」10 月 28 日、1 人、1 月 27 日、2 人

「戦前の落語を聴いてみよう」11 月 25 日、1 人、2 月 24 日、2 人

<民間（有料）データベースの内容（導入状況）>

中央) 6 種：D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン 21、G-search、ヨミダス歴史館、ジャパン・ナレッジ Lib（12 月～）

西部) 6 種：D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン 21、G-search、聞蔵Ⅱ、医中誌 Web

東部) 5 種：D1-Law、官報情報検索サービス、毎日ニュースパック、G-search、ルーラル電子図書館

2 高齢者・障害者サービス等

【重点事業①】 バリアフリー化の推進

○耐震化改修後のリニューアルに向けて、次期システムの更新も視野に入れてワンストップサービスの実現や書庫出納の迅速化等施設面、情報面においてバリアフリー化を推進する。

<年度別>25～29年度 施設検討（基本設計・実施設計）、耐震等改修工事

中央）県立図書館機能の強化に必要な施設・設備の検討（継続）、利用者安全対策の実施【H28】

27～29年度 次期システム（ソフト）検討・更新

3館）次期障害者用システム関連（機器及びソフト）の検討・更新

【平成29年度 進捗・成果】

中央）県立図書館の強化に必要な施設・設備の検討を進めた。

【重点事業②】 高齢者サービスの開発

○関係資料や拡大読書器等の提供とともに、講座開催など、シニア向けサービスを検討、実施する。

○県行政関係機関の広報活動と連携した講座・研修事業を検討、実施する。

<年度別>25～26年度 先進事例調査

27年度 課題と対応策の検討

28～29年度 事業内容の検討、サービス実施

東部）関連する講座及びコーナーの実施【H26～】

西部）大活字図書のパ架場所変更【H28～】

【平成29年度 進捗・成果】

中央）「読書支援機器活用講座（全3回）」第1回7月27日、第2回8月25日、第3回9月12日、延べ31人、内容：音声読書機器や拡大読書器の活用法、録音図書・マルチメディアDAISY「わいわい文庫」の紹介と体験など

西部）「医療・健康情報コーナー」（西部）の充実（継続）

「バリアフリー図書体験（開館30周年記念事業）」10月6日 12人

「読書支援機器活用講座」1月24日、36人、内容：講演「ICTを活用した街づくり・携帯情報端末を使用した情報提供について」、千葉県立図書館で体験することができる読書支援機器の紹介

東部）「はつらっライフナビ」（東部）の充実（継続）

「はつらっライフ講座（全2回）」第1回10月14日、第2回1月13日、延べ31人

内容：介護を必要とする体にならないために、老後の生活設計

【重点事業③】 障害者サービスの充実及び市町村立図書館への普及

- 県や市町村の担当課、特別支援学校、関係団体等と連携した広報活動を行う。
- 県や市町村の社会福祉協議会などを通して利用者ニーズを把握し、サービスの充実を図る。
- 市町村立図書館で事業を行う重要性が理解できるよう研修事業を見直す。

<年度別>25年度 広報計画の作成

26年度 研修事業の見直し、広報事業開始

27年度 新研修プログラムの実施

西部) 資料テキストデータ化研修実施 (継続)

【平成 29 年度 進捗・成果】

3 館) 障害者サービス関係の研修会 2 回、講座 10 回開催し、延べ 227 人が参加した。

「やさしい利用案内」作成

西部) ・特別支援学校への訪問読書支援実施 (西部管内の県立校へ事前調査し希望校 9 校に訪問)。

- ・本をデータ化しパソコン等で音声読み上げする「テキストデータサービス」本格実施。
- ・「千葉県立図書館所蔵マルチメディアデイジーのご案内 (リスト)」作成・公開
- ・「千葉県立図書館所蔵録音資料累積目録 (平成 29 年 2 月現在)」作成
- ・障害者サービス研修会再編 (基礎対象・2 週連続開講)【H29~】

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
M 録音図書貸出タイトル数及び利用者満足度 (タイトル数)	平均 タイトル	タイトル	タイトル	タイトル	タイトル	タイトル
	10,700	10,051	11,030	11,837	13,036	13,388
(満足度)	平均 以上	%	%	%	%	%
	80.0%	81.9	89.9	91.4	88.6	83.8
	87.1%					

<障害者サービス関係研修・講座 (実施状況)> 講座 10 回 (延べ 178 人)、研修 2 回 (延べ 49 人)

中央: 講座 4 回 (43 人)、西部: 講座 4 回 (114 人) 研修会 2 回 (49 人)、東部: 講座 2 回 (21 人)

中央) 「読書支援機器活用講座 (全 3 回)」延べ 31 人

第 1 回: 音声読書器用講座 7 月 27 日、10 人、第 2 回: 拡大読書器活用講座 8 月 25 日、7 人、

第 3 回: 読書支援機器活用講座 9 月 12 日、14 人

「サピエ図書館活用講座」12 月 12 日、12 人

西部) 「障害者のための資料デジタル化講座」6 月 16 日 36 人

「図書館音訳者養成講座 (中級) (全 2 回)」11 月 21 日、12 月 5 日 延べ 42 人

「障害者のための読書支援機器活用講座」1 月 24 日、36 人

「障害者サービス研修会 第 1 回」7 月 7 日、20 人

「障害者サービス研修会 第 2 回」7 月 12 日、29 人

東部) 「図書館音訳者養成講座 (全 2 回)」9 月 28 日、10 月 5 日 延べ 21 人

IV 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

千葉県や県内市町村に関する資料を網羅的に収集・保存し、将来にわたって利用できるようにするとともに、千葉県に関する情報窓口として様々な情報を発信していく。

1 千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存

【重点事業①】 千葉県関係資料の網羅的収集整備、保存

- 網羅的収集ができるよう地域・行政資料等の積極的な収集体制づくりを進める。
- インターネット上の資料を図書館情報システムの中で収集・閲覧できるよう、著作権者の許諾対応など研究していく。
- 資料収集の一環として、県民への県立図書館機能の周知と情報収集を行う。

<年度別>25～29年度 県民向け広報活動の検討と実施

中央) 県民向け講座(菜の花ライブラリー活用講座)の実施【H28～】

3館) 東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供(継続)

26年度 都道府県立図書館の調査

27～28年度 情報提供システムの検討

29年度 次期システムの検討・更新

中央) 図書館情報システムの更新

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 県民に寄贈を呼びかけるチラシや、国立国会図書館と連携・連名の事業の広報チラシなどを製作、配布している。また、東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供については、26年度に設置した図書館ホームページの東日本大震災千葉県関連サイトで寄贈依頼を行っている。さらに、県民向け講座の「菜の花ライブラリー活用講座」(6月17日、6人、満足度100%)を開催した。

<参考項目>

「資料受入冊数」は数値目標としていない。

基本項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
○ 千葉県関係資料受入冊数	冊 2,997	冊 2,601	冊 2,964	冊 2,840	冊 2,652

【重点事業②】 千葉県関係資料インターネット情報検索機能の充実

○県機関で所有している小規模な資料データベースや音声や映像等の資料以外のデータベースについても横断的に検索できるよう研究する。

<年度別> 27～28年度 情報提供システムの検討

29年度 次期システムの更新

中央) デジタルアーカイブ等の操作性の向上

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 図書館ホームページで公開している「菜の花ライブラリー」をより有効に活用できるよう、必要な機能改善の内容等について検討し、画面の見やすさ、資料検索、画像ダウンロードの利便性等の改善を行うよう仕様を定め、10月の機器更新後に新しい画面・機能を使用できるようにした。

【重点事業③】 千葉県関係の情報検索ツールの充実

○利用者ニーズを把握し、作成件数を増加していく。

○千葉県関係索引データ遡及入力について検討し、計画的に入力していく。

<年度別> 25年度 遡及入力計画の検討

26～29年度 入力作業の実施

西部) 千葉日報記事遡及入力実施（継続）

【平成29年度 進捗・成果】

3館) 国立国会図書館レファレンス協同データベースへの事例提供 4715件
(中9件、西部2件、東部4件)

中央) 千葉県関係「パスファインダー（調べ案内）」作成 1件
千葉県歴史関係雑誌記事索引入力 611件

西部) 千葉日報新聞記事索引入力 6,698件

東部) 千葉県歴史関係雑誌記事索引入力 82件(中央図書館と分担)

数 値 項 目	目標数値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実 績					
K [参考項目] 国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの事例提供件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	累計 件 — 100	件 21	件 29	件 20	件 15	件 15
L [参考項目] パスファインダー（調べ案内）の作成件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	累計 件 — 13	件 8	件 1	件 2	件 1	件 1
N 千葉県関係索引入力件数	累計 件 37,100 40,786	件 8,376	件 9,492	件 7,108	件 8,419	件 7,391

＜レファレンス協同データベースへの千葉県関係事例提供＞

中央) 登録 9 件 (「千葉県船橋町の『貧民救助条例』の条文」等)

西部) 登録 2 件 (「大津川と大堀川の水害史」等)

東部) 登録 4 件 (「印旛沼を題材にした俳句」等)

＜千葉県関係パスファインダーの内容＞

中央) 作成 1 件 千葉県の「市町村」について (市町村史等一覧)

【重点事業④】 千葉県関係レファレンスデータベースの構築

○県内図書館のレファレンスデータベースの実態調査を行うとともに、千葉県関係レファレンスデータベースの構築を次期システムに向けて検討する。

＜年度別＞ 25 年度 事業内容の検討
26 年度 県内図書館実態調査
27～28 年度 情報システムの検討
29 年度 次期システムの更新
中央) 図書館情報システムの更新

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 図書館システムの大幅な変更はしなかったため、レファレンスデータベースの修正は行わなかった。今後、平成 26 年度の県内図書館実態調査と県内アンケート調査の結果を参考に、次期システムに向けてレファレンスデータベースの構築について継続して検討を行う。

＜参考項目＞ 「レファレンス件数」は数値目標上の参考項目

基本項目	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
Q 千葉県関係レファレンス件数	件 1,536	件 1,634	件 1,724	件 1,274	件 1,032
＜千葉県資料室 (中央)＞					

【重点事業⑤】 資料の劣化防止のためのマイクロフィルム化やデジタル化の推進

○明治以降に刊行された資料についても劣化が進んでいるので、保存対策を検討し、計画的にマイクロフィルム化及びデジタル化を計画的に進めていく。

○国立国会図書館デジタル化資料における千葉県関係資料の活用を図る。

＜年度別＞ 25 年度 デジタル化計画の作成
26 年度 著作権処理対応などの調査
27～29 年度 マイクロフィルム及びデジタル化
中央) 先進事例を参考にした計画的なデジタル化の実施 (継続)

【平成 29 年度 進捗・成果】

中央) 「菜の花ライブラリー」の改善案を検討し、10月の電算機器更新後に、新機能を追加した画面を公開した。同時に、大正10年から昭和20年までの千葉県報を図書館ホームページにアップし

た。国立国会図書館のデジタル化資料の活用については、28年度の都道府県立図書館実態調査の聴取結果を参考に検討した。

2 関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信

【重点事業①】 関係機関との連携による利用の拡大

○次期システムに向けて、県行政機関及び博物館等類縁機関と協議し、デジタル情報の共有化を研究していく。

<年度別>25～26年度 類縁機関との協議

3館) 県立中央博物館との意見交換会実施(継続)

27～28年度 次期システムの検討

29年度 県内デジタル図書館サービス開始

3館) 横断検索システムの拡充【H27～】

【平成29年度 進捗・成果】 【前出I-1-③】

3館) 連携の在り方について検討(連携事業の実施)

県立中央博物館、県民プラザとの意見交換会を1回開催し、連携事業状況を確認しながら、今後の連携について意見交換を行った。

<大学図書館、類縁機関との連携事業> 【※人数は参加者数を示す(以降同様)】

3館) 県内の大学及び類縁機関と連携し、資料の相互貸借や研修事業を行った。

大学への貸出(515冊)及び借受(155冊)、類縁機関への貸出(152冊)

中央) さわやかちば県民プラザ 読み聞かせ講座(教職員対象)(共催)26人

さわやかちば県民プラザ 読み聞かせ講座(一般対象)(共催)32人

千葉県こども病院 訪問おはなし会(会場:千葉県こども病院)9月6日、延べ23人

中央博物館との連携展示「きのこワンダーランド」7月22日～9月10日

中央博物館との連携パネル展示「きのこワンダーランド～絵本の中のきのこ」

2月10日～3月31日

西部) 「サイエンス・カフェ 日本人と海藻」(講師:中央博物館)7月29日、28人

「開館30周年記念講座 東葛を旅した人々～桃林・桜雲を愛で行く日々～」

(講師:中央博物館)10月7日、23人

東部) 「歴史講座 北総四都市江戸紀行-銚子・佐原・成田・佐倉-」

(講師:中央博物館)11月4日、64人

「千葉経済大学短期大学部との連携研修会」(講師:千葉経済大学短期大学部)2月15日、22人

V 社会の変化に対応した図書館サービスの推進

情報環境の急激な変化に対応した新しい図書館サービスを推進するとともに、県民に開かれた図書館経営を行うため、利用者への情報提供や広報を積極的に行う。

1 ITを活用したハイブリッド図書館の整備

【重点事業①】 資料のデジタル化や電子書籍によるハイブリッド図書館

○紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

【平成29年度 進捗・成果】

「資料のデジタル化」についてはIV-1-⑤、「電子書籍サービス」についてはV-1-②参照。

【重点事業②】 電子書籍サービス

○民間や国立国会図書館の動向を踏まえ、電子書籍サービスを開始する。
○サービスを試行する中では、市町村立図書館でも開始できるよう調査、検証していく。紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

＜年度別＞ 25年度 中央図書館でサービス試行開始
26～28年度 サービスの検証、他県調査
(中央) 館内利用サービスの検証(継続)
29年度 次期システムの検討
3館) 商用電子書籍の見直し

【平成29年度 進捗・成果】

中央) 館内利用の試行・分析継続

館内で提供している電子書籍等(デジタルコンテンツ)の利用検証や利用実態の分析を踏まえて「有斐閣YDC1000」の契約を終了し、代わりに辞書・事典類のデータベースであるジャパン・ナレッジを導入した。また、千葉県関係のデジタルコンテンツ、レファレンス等に有用な商用データベースを充実させる検討を行った。

＜提供コンテンツ＞

- ・ジャパン・ナレッジ(約50種類の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイト)
- ・千葉県立図書館ホームページ: 菜の花ライブラリー

2 県民に開かれた図書館経営

【重点事業①】 図書館の広報戦略の強化

○県民ニーズを理解し反映するための定期的調査を行い、年間事業計画をたて、県や市町村とも連携し、県内図書館利用促進を含めた実施事業の広報を継続して行っていく。

＜年度別＞25～29年度 広報計画の作成と実践、利用者アンケート調査実施

3館) 年間広報計画作成と実施、館内利用者アンケート調査実施（継続）

中央) NHKFM 放送への参加（継続）

【平成 29 年度 進捗・成果】

3館) 積極的な広報を展開していくため、広報計画の策定を進めた。また、館内利用者アンケート調査（10月4日～10月15日）を3館同時に実施した。

中央) 図書館職員が FM ラジオ番組に出演し、県民の方々に読んでほしい図書を紹介した。平成 29 年度は一般書や児童書に加え、千葉県に関する資料の紹介も行った。（毎月第 3 月曜日、NHK 千葉放送局 FM 放送「ひるどき情報ちば」）

数 値 項 目	目標数値	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	実 績					
C 利用者アンケート満足度調査	平均 以上 75.0% 78.3%	76.3%	79.5%	78.7%	75.5%	81.3%

＜利用者アンケート実施状況 29 年度 ＞

※各項目上段に本年度数値 下段は前年度

質問項目（共通）/総合及び各館評価	総合	中央	西部	東部
問①～⑥の平均値	81.3% 75.5%	74.9% 70.5%	82.6% 73.1%	85.5% 81.8%
①お探しの本（資料）は利用できましたか。	76% 72%	68% 73%	78% 64%	79% 80%
②館内案内図や書架の表示、カウンターの表示などはわかりやすいですか	75% 69%	64% 53%	78% 67%	83% 81%
③職員の対応はいかがですか	90% 87%	87% 86%	90% 86%	91% 88%
④他の図書館からの本の取り寄せの期間や手続きはいかがですか	77% 74%	68% 66%	80% 71%	81% 83%
⑤資料検索機、インターネット等のパソコンでお探しの情報は得られましたか	82% 69%	76% 67%	82% 74%	92% 65%
⑥調べものや探している本のことで職員に相談したときの回答は的確でしたか	88% 81%	88% 77%	88% 77%	88% 89%

VI 今後の図書館経営・施設整備の方向性

中央図書館を中核に、3館が一体となって機能強化を図るため、組織体制やサービス内容の見直しを行うとともに、老朽化した中央図書館の施設整備をすすめる。

【重点事業①】 地域分担から機能強化へ

- 県民ニーズや時代に対応した図書館サービスを実践するため、組織体制やサービス内容の見直しを行う。
- 県立図書館司書の専門的知識・経験を活かしながら、数値目標と図書館関係の調査実施などを通じて、自己点検と外部評価により、効果的・効率的な図書館経営を進める。
- 3館が収集分担を明確にし、連携して市町村立図書館が収集し難い資料を多く収集・保存し、提供できるようにする。

<年度別>25～29年度 組織体制及びサービス見直し及び県民ニーズの把握、検証

3館) 新組織体制・開館日増の分析(継続)

29年度 「在り方」の見直し

3館) 次期「在り方行動計画」の検討

【平成29年度 進捗・成果】

3館) 各館の特色、利用方法や各種事業等について、館報、ホームページ及び各種マスコミ等を活用した広報活動を行った。

館内利用者アンケート調査結果(10月4日～10月15日実施)によるご意見等を参考に、図書館サービス改善について取組を進めた。

【重点事業②】 中央図書館の施設整備

<年度別>25～29年度 施設検討(基本設計・実施設計)、耐震等改修工事

中央) 県立図書館機能の強化に必要な施設・設備の検討(継続)

中央) 耐震不足に係る安全対策の実施【H28】

【平成29年度 進捗・成果】

3館) 30年1月に策定された「千葉県立図書館基本構想」を踏まえ、将来を見据えた施設・設備やサービスの方向性についての見直し作業を行った。

中央) 書庫狭隘化対策として行った館内重複図書の廃棄候補の選定作業を完了し、西部図書館、東部図書館との重複図書の廃棄候補の選定に着手した。汚破損本等を含め4377冊を除籍した。また、東部図書館への図書移送(外国文学7,692冊)が完了し、12月から西部図書館への図書移送(医学資料約7,000冊)に着手した。